

SigmaSystemCenter 3.x データベース(SQL Server)のアップグレード手順

利用条件・免責事項

本書の利用条件や免責事項などについては、次のページを参照してください。

<http://jpn.nec.com/site/termsfuse.html>

目次

1. 対象となるアップグレードのケース.....	1
2. 関連マニュアル(クラスタ環境の場合).....	4
3. クラスタ環境構成、前提条件.....	5
4. 通常環境の場合のアップグレード手順.....	6
4.1 事前準備	6
4.2 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを アップグレードするには.....	7
4.2.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの 停止.....	7
4.2.2 SQL Server のアップグレードインストール	7
4.2.3 修正プログラム、Service Pack の適用	9
4.2.4 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの 開始.....	9
5. クラスタ環境の場合のアップグレード手順.....	10
5.1 事前準備	10
5.2 フェイルオーバーグループの設定変更.....	11
5.3 現用系サーバにおけるデータベースの開始.....	11
5.4 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを アップグレードするには.....	11
5.4.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの 停止.....	11
5.4.2 SQL Server のアップグレードインストール	12
5.4.3 修正プログラム、Service Pack の適用	14
5.5 現用系サーバにおけるデータベースの停止	14
5.6 クラスタグループのフェイルオーバー.....	14
5.7 待機系サーバにおけるデータベースの開始.....	14
5.8 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを アップグレードするには.....	14
5.9 待機系におけるデータベースの停止.....	15
5.10 クラスタグループのフェイルバック	15
5.11 フェイルオーバーグループの設定復旧	15
6. 補足・注意事項.....	16

6.1 SQL Server 2012 を使用する際の注意事項	16
6.1.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 Express を使用する際の注意事項	16
6.1.2 64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 上位エディションを使用する際の注意事項	16
6.1.3 DPM が使用する DPMDBI インスタンスのアンインストール	16
6.2 SQL Server 2014 を使用する際の注意事項	17
6.2.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2014 を使用する際の注意事項	17
6.2.2 SQL Server 2008 R2 から SQL Server 2014 にアップグレードする際の注意事項	17
6.3 SQL Server 2016 / SQL Server 2017 を使用する際の注意事項	17
6.4 SQL Server 2019 を使用する際の注意事項	18
7. トラブルシューティング	19

対象バージョン: SSC3.1～3.12

本手順は、SigmaSystemCenter 3.1～3.12 で使用しているデータベース (SQL Server) をアップグレードする手順について記載しています。

通常環境に加えて、クラスタ環境に構築された SigmaSystemCenter で使用しているデータベースのアップグレード手順についても記載しています。本書内で、クラスタリングソフトウェアには CLUSTERPRO X 4.3 を使用して構築していることを前提として記載しています。

アップグレードの対象となるのは、SQL Server で作成された DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視の各インスタンスです。

アップグレード先の対象の SQL Server は、SQL Server 2012、SQL Server 2014、SQL Server 2016、SQL Server 2017 および SQL Server 2019 です。



1. 対象となるアップグレードのケース

本手順書では、以下のケースを対象としています。

- SQL Server 2012 へのアップグレード

対象バージョン: SSC3.1～3.12

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンの SigmaSystemCenter で、SQL Server 2005、SQL Server 2008、および SQL Server 2008 R2 を使用されていた場合は、SigmaSystemCenter のバージョンアップが完了したあとに、既存の SQL Server インスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2005	SQL Server 2012
SQL Server 2008	SQL Server 2012
SQL Server 2008 R2	SQL Server 2012

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.1 Update 1、3.2、3.3 では、デフォルトで SQL Server 2012 Express がインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2012 Express	SQL Server 2012 上位エディション

- SQL Server 2014 へのアップグレード

対象バージョン: SSC3.3～3.12

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンの SigmaSystemCenter で、SQL Server 2008 R2、および SQL Server 2012 を使用されていた場合は、SigmaSystemCenter のバージョンアップが完了したあとに、既存の SQL Server インスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2008 R2	SQL Server 2014
SQL Server 2012	SQL Server 2014

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.4、3.5 では、デフォルトで SQL Server 2014 Express がインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2014 Express	SQL Server 2014 上位エディション

- SQL Server 2016 へのアップグレード

対象バージョン: SSC3.5～3.12

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンの SigmaSystemCenter で、SQL Server 2008 R2、SQL Server 2012、および SQL Server 2014 を使用されていた場合は、SigmaSystemCenter のバージョンアップが完了したあとに、既存の SQL Server インスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2008 R2	SQL Server 2016
SQL Server 2012	SQL Server 2016
SQL Server 2014	SQL Server 2016

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.6、3.7 では、デフォルトで SQL Server 2016 Express がインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2016 Express	SQL Server 2016 上位エディション

- SQL Server 2017 へのアップグレード

対象バージョン: SSC3.6～3.12

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンの SigmaSystemCenter で、SQL Server 2008 R2、SQL Server 2012、SQL Server 2014、および SQL Server 2016 を使用されていた場合は、SigmaSystemCenter のバージョンアップが完了したあとに、既存の SQL Server インスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2008 R2	SQL Server 2017
SQL Server 2012	SQL Server 2017
SQL Server 2014	SQL Server 2017
SQL Server 2016	SQL Server 2017

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.8 では、デフォルトで SQL Server 2017 Express がインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2017 Express	SQL Server 2017 上位エディション

- SQL Server 2019 へのアップグレード

対象バージョン: SSC3.9～3.12

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンの SigmaSystemCenter で、SQL Server 2012、SQL Server 2014、SQL Server 2016 および SQL Server 2017 を使用されていた場合は、SigmaSystemCenter のバージョンアップが完了したあとに、既存の SQL Server インスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2012	SQL Server 2019
SQL Server 2014	SQL Server 2019
SQL Server 2016	SQL Server 2019
SQL Server 2017	SQL Server 2019

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.9 ではデフォルトで SQL Server 2019 Express がインストールされます。また、SigmaSystemCenter 3.10、3.11、3.12 のデフォルトのデータベースは PostgreSQL ですが、SQL Server 2019 Express も選択できます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2019 Express	SQL Server 2019 上位エディション

2. 関連マニュアル(クラスタ環境の場合)

クラスタ環境の場合は、本書に併せて以下のマニュアルをご使用ください。

- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 インストール
レーションガイド
- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 コンフィ
グレーションガイド
- SigmaSystemCenter 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6 / 3.7 / 3.8 / 3.9 / 3.10 / 3.11 / 3.12 クラスタ
構築手順
- CLUSTERPRO X 4.3 for Windows インストール&設定ガイド
<https://jpn.nec.com/clusterpro/clpx/manual.html?#anc-x43>
- CLUSTERPRO X ソフトウェア構築ガイド for Windows のデータベース
<https://jpn.nec.com/clusterpro/clpx/guide.html#anc-win>

3. クラスタ環境構成、前提条件

本手順では、クラスタ構築手順に示す通り、以下のクラスタ環境構成、前提条件で、アップグレードインストールを行うものとして記載しています。

- クラスタ環境

現用系：1台 / 待機系：1台の計2台による「2ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

- 前提条件

本手順では、CLUSTERPROのスク립トリソースにて、SigmaSystemCenterで使用するデータベースのアタッチ/デタッチ、およびサービスの起動/停止を制御するという前提で記載しています。

データベースのアタッチ、およびデタッチは、以下のように制御されていない場合には、手順を適宜修正してください。

- 現用系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

- 待機系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

4. 通常環境の場合のアップグレード手順

通常環境をご使用の場合は、以下の手順を実施してください。

4.1 事前準備

アップグレードする前の SQL Server に、修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態でアップグレードを実施すると、SQL Server のアップグレードが中断されてしまい、正しく完了することができません。

また、SQL Server をアップグレードする場合は、アップグレードを開始する前に、.NET Framework のインストールが必要になる場合があります。以下を参照して、該当する .NET Framework をインストールしてください。

アップグレード先	事前にインストールが必要な .NET Framework
SQL Server 2012 Express	.NET Framework 4 (.NET Framework 4 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2012 上位エディション	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2014 Express	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)、および .NET Framework 4 (.NET Framework 4 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2014 上位エディション	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2016 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2016 上位エディション	なし
SQL Server 2017 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2017 上位エディション	なし
SQL Server 2019 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2019 上位エディション	なし

注

Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 で、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールする場合は、サーバーマネージャの「役割と機能の追加」ウィザードからインストールしてください。

- 「機能の選択」画面で [.NET Framework 3.5 Features] チェックボックスをオンにしてください。
- 「インストールオプションの確認」画面の [代替ソースパスの指定] をクリックしてください。「代替ソースパスの指定」画面が表示されますので、[パス] に Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、または Windows Server 2016 インストールメディアのサイドバイサイドストア (SxS) フォルダを指定してください。

4.2 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレードするには

DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースのアップグレードを行います。以下の節の順番でアップグレードを実施してください。

4.2.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止

以下の順番でサービスを停止してください。

1. 【SystemMonitor 性能監視】
 - System Monitor Performance Monitoring Service
2. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
3. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mtftp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management

4.2.2 SQL Server のアップグレードインストール

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視のインスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値)(*1)と「SSCCMDB」(既定値)です。各インスタンスの SQL Server をアップグレードするには、以下の該当する SQL Server バージョンの手順に従って実施してください。

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は、「DPMDBI」(既定値)に変更になりました。

<SQL Server 2012 の場合>

- SQL Server 2012 へアップグレードするには

[https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/ms144267\(v=sql.110\)](https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/ms144267(v=sql.110))

- SQL Server 2012 のエディションアップグレードをするには

[https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/cc707783\(v=sql.110\)](https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/cc707783(v=sql.110))

注

- SQL Server 2012 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。
「6.1 SQL Server 2012 を使用する場合の注意事項 (16 ページ)」
- アップグレード中にエラーが発生した場合は、以下を参照してください。
「7. トラブルシューティング (19 ページ)」

<SQL Server 2014 の場合>

- SQL Server 2014 へアップグレードするには

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/2014/database-engine/install-windows/upgrade-sql-server-using-the-installation-wizard-setup?view=sql-server-2014>

- SQL Server 2014 のエディションアップグレードをするには

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/2014/database-engine/install-windows/upgrade-to-a-different-edition-of-sql-server-setup?view=sql-server-2014>

注

SQL Server 2014 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「6.2 SQL Server 2014 を使用する場合の注意事項 (17 ページ)」

<SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 の場合>

- SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 へアップグレードするには

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/install-windows/upgrade-sql-server-using-the-installation-wizard-setup?view=sql-server-ver15>

- SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 のエディションアップグレードをするには

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/install-windows/upgrade-to-a-different-edition-of-sql-server-setup?view=sql-server-ver15>

注

SQL Server 2016 / SQL Server 2017 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「6.3 SQL Server 2016 / SQL Server 2017 を使用する場合の注意事項 (17 ページ)」

SQL Server 2019 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「[6.4 SQL Server 2019 を使用する場合の注意事項 \(18 ページ\)](#)」

詳細については、以下を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/sql-server/install/hardware-and-software-requirements-for-installing-sql-server-ver15?view=sql-server-ver15>

4.2.3 修正プログラム、Service Pack の適用

以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに、修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して、適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

4.2.4 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの開始

「[4.2.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止 \(7 ページ\)](#)」で停止したサービスを以下の順番で開始してください。

1. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mftfp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management
2. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
3. 【SystemMonitor 性能監視】
 - System Monitor Performance Monitoring Service

以上で、SQL Server のアップグレードは完了です。

5. クラスタ環境の場合のアップグレード手順

クラスタ環境をご使用の場合は、以下の手順を実施してください。

5.1 事前準備

アップグレードする前の SQL Server に、修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態でアップグレードを実施すると、SQL Server のアップグレードが中断されてしまい、正しく完了することができません。

また、SQL Server をアップグレードする場合は、アップグレードを開始する前に、.NET Framework のインストールが必要になる場合があります。以下を参照して、該当する .NET Framework をインストールしてください。

アップグレード先	事前にインストールが必要な .NET Framework
SQL Server 2012 Express	.NET Framework 4 (.NET Framework 4 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2012 上位エディション	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2014 Express	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)、および .NET Framework 4 (.NET Framework 4 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2014 上位エディション	.NET Framework 3.5 SP1 (.NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2016 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2016 上位エディション	なし
SQL Server 2017 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2017 上位エディション	なし
SQL Server 2019 Express	.NET Framework 4.6.x (.NET Framework 4.6.x 日本語 Language Pack 含む)
SQL Server 2019 上位エディション	なし

注

Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 で、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールする場合は、サーバーマネージャの「役割と機能の追加」ウィザードからインストールしてください。

- 「機能の選択」画面で [.NET Framework 3.5 Features] チェックボックスをオンにしてください。
- 「インストールオプションの確認」画面の [代替ソースパスの指定] をクリックしてください。「代替ソースパスの指定」画面が表示されますので、[パス] に Windows Server 2012、Windows

Server 2012 R2、または Windows Server 2016 インストールメディアのサイドバイサイドストア (SxS) フォルダを指定してください。

本手順は、現用系 / 待機系サーバで実施してください。

完了後、以降の手順を実施してください。

5.2 フェイルオーバーグループの設定変更

現用系サーバにて、CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースを削除します。

CLUSTERPRO WebUI を起動し、[クラスタ停止] を行います。次に、フェイルオーバーリソースから以下のリソースを削除してください。

- スクリプトリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す
- レジストリ同期リソースを削除し、レジストリを同期対象から外す

リソースの削除後、CLUSTERPRO WebUI で [設定の反映] を実施し、各ノードに構成情報を反映させます。設定の反映実施後、CLUSTERPRO WebUI で [クラスタ開始] を行います。

5.3 現用系サーバにおけるデータベースの開始

現用系サーバにて、SQL インスタンスサービスを手動で起動します。

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視の各インスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値)(*1)と「SSCCMDB」(既定値)です。

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は、「DPMDBI」(既定値)に変更になりました。

5.4 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレードするには

現用系サーバにて、SQL Server のアップグレードを行います。以下の節の順番でアップグレードを実施してください。

5.4.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止

以下のサービスが停止されていることを確認してください。停止していない場合には、以下の順番で手動で停止してください。

1. 【SystemMonitor 性能監視】

- System Monitor Performance Monitoring Service
2. 【SystemProvisioning】
 - PVMService
 3. 【DeploymentManager】
 - DeploymentManager API Service
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager Get Client Information
 - DeploymentManager PXE Management
 - DeploymentManager PXE Mtftp
 - DeploymentManager Remote Update Service
 - DeploymentManager Schedule Management
 - DeploymentManager Transfer Management

5.4.2 SQL Server のアップグレードインストール

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視のインスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値)(*1)と「SSCCMDB」(既定値)です。各インスタンスの SQL Server をアップグレードするには、以下の該当する SQL Server バージョンの手順に従って実施してください。

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は、「DPMDBI」(既定値)に変更になりました。

アップグレード完了後、再起動が必要な場合には、CLUSTERPRO WebUI から [リブート] を実施してください。

<SQL Server 2012 の場合>

- SQL Server 2012 へアップグレードするには
[https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/ms144267\(v=sql.110\)](https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/ms144267(v=sql.110))
- SQL Server 2012 のエディションアップグレードをするには
[https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/cc707783\(v=sql.110\)](https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/sql-server-2012/cc707783(v=sql.110))

注

- SQL Server 2012 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。
「6.1 SQL Server 2012 を使用する場合の注意事項 (16 ページ)」
- アップグレード中にエラーが発生した場合は、以下を参照してください。
「7. トラブルシューティング (19 ページ)」

<SQL Server 2014 の場合>

- SQL Server 2014 へアップグレードするには
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/2014/database-engine/install-windows/upgrade-sql-server-using-the-installation-wizard-setup?view=sql-server-2014>
- SQL Server 2014 のエディションアップグレードをするには
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/sql/2014/database-engine/install-windows/upgrade-to-a-different-edition-of-sql-server-setup?view=sql-server-2014>

注

SQL Server 2014 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「6.2 SQL Server 2014 を使用する場合の注意事項 (17 ページ)」

<SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 の場合>

- SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 へアップグレードするには
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/install-windows/upgrade-sql-server-using-the-installation-wizard-setup?view=sql-server-ver15>
- SQL Server 2016 / SQL Server 2017 / SQL Server 2019 のエディションアップグレードをするには
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/install-windows/upgrade-to-a-different-edition-of-sql-server-setup?view=sql-server-ver15>

注

<SQL Server 2016 / SQL Server 2017 の場合>

SQL Server 2016 / SQL Server 2017 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「6.3 SQL Server 2016 / SQL Server 2017 を使用する場合の注意事項 (17 ページ)」

<SQL Server 2019 の場合>

SQL Server 2019 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。

「6.4 SQL Server 2019 を使用する場合の注意事項 (18 ページ)」

5.4.3 修正プログラム、Service Pack の適用

以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに、修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して、適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

5.5 現用系サーバにおけるデータベースの停止

現用系サーバにて、SQL インスタンスサービスを停止します。

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視の各インスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値)(*1)と「SSCCMDB」(既定値)です。

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は、「DPMDBI」(既定値)に変更になりました。

5.6 クラスタグループのフェイルオーバー

現用系サーバから待機系サーバにフェイルオーバーします。

CLUSTERPRO WebUI で [グループ移動] を行うことにより、待機系サーバにフェイルオーバーを実施します。フェイルオーバー後、「[5.4.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止 \(11 ページ\)](#)」に記載されているサービスが停止していることを確認してください。

5.7 待機系サーバにおけるデータベースの開始

待機系サーバにて、SQL インスタンスサービスを手動で起動します。

手順については、「[5.3 現用系サーバにおけるデータベースの開始 \(11 ページ\)](#)」を参照してください。

5.8 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレードするには

待機系サーバにて、SQL Server のアップグレードを行います。

手順については、「[5.4.2 SQL Server のアップグレードインストール \(12 ページ\)](#)」、「[5.4.3 修正プログラム、Service Pack の適用 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

5.9 待機系におけるデータベースの停止

待機系サーバにて、SQL インスタンスサービスを停止します。

手順については、「[5.5 現用系サーバにおけるデータベースの停止 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

5.10 クラスタグループのフェイルバック

待機系サーバから現用系サーバにフェイルバックします。

CLUSTERPRO WebUI で [グループ移動] を行うことにより、現用系サーバにフェイルバックを実施します。

5.11 フェイルオーバーグループの設定復旧

現用系サーバにて、CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースを追加して設定の復旧を行います。

CLUSTERPRO WebUI を起動し、[クラスタ停止] を行います。次に、「[5.2 フェイルオーバーグループの設定変更 \(11 ページ\)](#)」で削除したスクリプトリソースとレジストリ同期リソースを追加してください。リソースの追加後、[設定の反映] を実施し、各ノードに構成情報を反映させます。設定の反映実施後、CLUSTERPRO WebUI で [クラスタ開始] を行います。

クラスタを開始して、DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が動作していることを確認してください。

以上で、SQL Server のアップグレードは完了です。

6. 補足・注意事項

6.1 SQL Server 2012 を使用する際の注意事項

6.1.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 Express を使用する 場合

64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 Express にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

注

本内容は、アップグレード元の SQL Server が、x86 アーキテクチャの場合の注意事項です。アップグレード元の SQL Server が、x64 アーキテクチャの場合の注意事項はありません。

- Microsoft SQL Server 2012 Express のインストーラは、Microsoft ダウンロードセンターから SQLEXPRESS_x86 (32 ビットと 64 ビットの両方 (WoW) の OS へのインストールをサポートしている) を入手してください。
- Microsoft SQL Server 2012 Express のインストーラを実行する際は、コマンドプロンプトで「/X86」オプションを付けて実行してください。

6.1.2 64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 上位エディションを 使用する場合

64 ビット版 OS にて SQL Server 2012 上位エディションにアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

注

本内容は、アップグレード元の SQL Server が、x86 アーキテクチャの場合の注意事項です。アップグレード元の SQL Server が、x64 アーキテクチャの場合の注意事項はありません。

- 「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、[プロセッサの種類:] から "x86" を選択します。その後、SQL Server のアップグレードインストール手順に従って、アップグレードしてください。

6.1.3 DPM が使用する DPMDBI インスタンスのアンインストール

本手順に従って SQL Server 2012 へアップグレードを実施すると、SigmaSystemCenter のインストーラから、DeploymentManager が使用する DPMDBI インスタンスをアンインストールすることができなくなります。アンインストールを実施する場合には、以下の手順に従ってください。

注

本内容は、SigmaSystemCenter 3.1 に関する注意事項です。

< Windows Server 2008 以降の場合 >

1. コントロールパネルより、[プログラムと機能] をクリックします。
2. 「Microsoft SQL Server 2012」を選択して、[アンインストール] をクリックします。指示に従って、「DPMDBI」インスタンスのアンインストールを実施してください。

6.2 SQL Server 2014 を使用する場合の注意事項

6.2.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2014 を使用する場合の注意事項

64 ビット版 OS にて SQL Server 2014 にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- アップグレード元の SQL Server のアーキテクチャ (x86、または x64) を確認して、適切な SQL Server 2014 のインストールメディアを使用してください。

6.2.2 SQL Server 2008 R2 から SQL Server 2014 にアップグレードする場合の注意事項

アップグレード元が SQL Server 2008 R2 の場合、SQL Server 2014 にアップグレードする前に、以下の手順で、Microsoft SQL Server 2012 Native Client をアンインストールしてください。

1. コントロールパネルより、[プログラムのアンインストール] をクリックします。
2. [Microsoft SQL Server 2012 Native Client] を選択して、[アンインストール] をクリックします。指示に従って、アンインストールを実施してください。

6.3 SQL Server 2016 / SQL Server 2017 を使用する場合の注意事項

SQL Server 2016 / SQL Server 2017 にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- x86 アーキテクチャは、SQL Server 2016 / SQL Server 2017 ではサポートされていません。そのため、アップグレード元の SQL Server のアーキテクチャが x86 の場合、SQL Server 2016 / SQL Server 2017 へのアップグレードはできません。

- Windows Server 2008 R2 以前の OS は、SQL Server 2016 / SQL Server 2017 ではサポートされていません。そのため、Windows Server 2008 R2 以前の OS では、SQL Server 2016 / SQL Server 2017 へのアップグレードはできません。

詳細については、以下を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/sql-server/install/hardware-and-software-requirements-for-installing-sql-server?view=sql-server-2017>

6.4 SQL Server 2019 を使用する場合の注意事項

SQL Server 2019 にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- x86 アーキテクチャは、SQL Server 2019 ではサポートされていません。そのため、アップグレード元の SQL Server のアーキテクチャが x86 の場合、SQL Server 2019 へのアップグレードはできません。
- Windows Server 2012 R2 以前の OS は、SQL Server 2019 ではサポートされていません。そのため、Windows Server 2012 R2 以前の OS では、SQL Server 2019 へのアップグレードはできません。

詳細については、以下を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/sql-server/install/hardware-and-software-requirements-for-installing-sql-server-ver15?view=sql-server-ver15>

7. トラブルシューティング

[現象]

SQL Server 2012 へのアップグレードインストール時に、以下のメッセージが表示される。

[メッセージ]

次のエラーが発生しました:

パス 'C:\Program Files\Microsoft SQL Server\110\License Terms\

SQLServer2012(SP1)_License_ENT_1041.rtf'へのアクセスが拒否されました。

[再試行] をクリックしてやり直すか、[キャンセル] をクリックしてこの操作を取り消し、セットアップを続行してください。

[対処方法]

上記のメッセージに表示されたファイルのプロパティを表示して、属性の [読み取り専用] チェックボックスをオフにしてください。その後、[再試行] をクリックして、アップグレードを続行してください。

SigmaSystemCenter 3.x データベース(SQL Server)のアップグレード手順

SSC0307-doc-0009-6

2022 年 05 月 6 版 発行

© NEC Corporation 2013 - 2022